

明海大学 不動産学部

不動産の不思議

第87回

学生たちの視点と発見

【学生の目】

明海大学の通学に使うJR京葉線新浦安駅の二つ隣の葛西臨海公園駅から東京湾に延びる軸線上に写真の個性的な建物が建っている。

まず「壁がない」。建物の両面が透明ガラスで、ガラス越しに向こうが見える。1階に建物を通する屋外通路があるが、通路越しとガラス越しの空の色が同じで、壁を感じない。

建物らしくない建物

て雨を防ぐ。しかし、パラペットがなく屋根を感じない。更に「床がない」。2階の床を支える梁が必要だが、この建物には梁がなく、床は一枚の紙のように薄い。そして「柱がない」。柱は壁や床や屋根を支える重要な要素だが、柱が見えない。この建物はクリスタルビューと呼ばれる。ニューヨーク近代美術館を設計した一級建築士、谷口吉生氏が20年前に設計した。用途は公園を訪

かし、これほど広いガラス面が強風を受けて大丈夫なのか。外壁面のガラスは普通、アルミサッシの窓枠に固定し、横に連続する場合も方立て(ほうだて)で補強するが、ここでは2階分の高さの方立てで支え、その方立てが屋根に連続して屋根も支えているようだ。8角の柱を設けて建物を支える一般的な方法ではなく、60度程度ごとに多数配置した「方立て兼用の柱」が、ガラスと屋根を支えている。

通路のコンクリートスラブはエレ

葛西臨海公園にある休憩施設

れた人の休憩や海の展望だ。

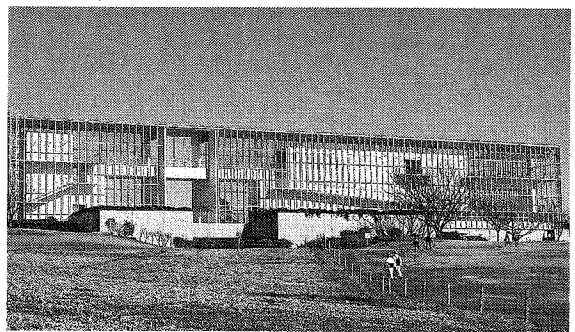
次に「屋根がない」。建物の重要な機能は屋根で雨を防ぐことだ。陸屋根の場合、周囲に高さ50センチほどのパラペットを設け、防水層を固定し

部は一方通行の順路があり、美術館のようだ。コンクリート製の部分は、通路、階段、エレベーター昇降路や展示ブースである。

訪れた日は帽子が飛ばされるほどの強風だったが、建物内は静かだ。ガラスをよく見ると厚い二重構造となっていて、風を遮断している。し

ベーター昇降路などが支える構造となっている。柱で建物全体を支えるのではなく、屋根と床を別々に支えている。そして、二つの構造体は吹き抜け部分に何本も張り巡らされた、鉄製の小さな直径の水平ブレースで結ばれている。それが筋かいのような役割をして、強風による構造体の揺れを吸収している。

この建物の魅力は風船のように飛



壁がなく屋根もない不思議な建物の魅力とは…

んでいきそうな軽快さだ。プライバシーに工夫は必要だが、こんな軽快さをもった住宅をいつか設計してみたい。

【教員のコメント】

長方形のシンプルな建物だが、シンプルに見せるために多くの工夫が隠されている。普通につくるとあるものを「消す」ことで生み出す演出だが、同様のことは一般の建物にもある。「ない」ことを感じるのが本物を評価する能力につながる。



池羽 七海
不動産学部2年